

目次

臨時総会と講演会及び新春交流会のご案内	1
2011年 希望の年へ	2～3
あったか歳時記（1月）	3
昨秋季出前授業報告	4～9
誌上インタビュー 櫻井純理さんに聞く	10～12
労働相談員・感想記	13～14
編集後記	15
図書紹介	16

当法人設立以来常務理事として、運営・事業を一手に引き受け、現在のあったかサポートの事務局を務めて来ましたが、笹尾達朗氏が、去る十一月二十九日にスタートしましたパーソナル・サポートセンターのチーフ・サポーターに就任しました。

パーソナル・サポートセンターには専任として関わるため、これまでのように当法人の業務を行うことが出来なくなりました。

これに伴い、笹尾常務理事のこれまでの業務を引き継ぎ新たな体制を決め、併せて、これまで当法人として取り組んできました事業と深い関わりがあるパーソナル・サポートセンターを全面的に支えて行く決意を表すため、臨時総会を開催いたします。

また、パーソナル・サポートセンターの事業を理解するため、この事業の提案者である反貧困ネットワーク事務局長で、内閣府参与の湯浅誠氏をお迎えして「パーソナル・サポート事業の展望と課題」と題した講演を開催致します。

その後は、恒例の参加者による新春交流会を開催していきます。

会員の皆様の参加をお待ちしています。

臨時総会と講演会 及び新春交流会のご案内

二〇一一年一月三〇日（日）

第一部 臨時総会

午後一時三十分～二時三十分
議題：パーソナル・サポート事業
と新体制の確立
会場：京都テルサ西館第一会議室

第二部 新春講演会

午後三時～五時
テーマ：「パーソナル・サポート事業の展望と課題」
講師：湯浅誠氏（反貧困ネットワーク事務局長・内閣府参与）
会場：京都テルサ西館第一会議室
参加費：千円

第三部 新春交流会

午後五時三十分～七時三十分
参加者全員の紹介と交流
会場：京都テルサ東館一階
レストラン朱雀
会費：五千円（湯浅誠氏新春講演会参加費含む）

希望の年へ

理事長 澤井 勝



新しい2011年の年が明けた。私たちはこの年が希望の年であることを祈念している。とは言っても、雇用状況はよくない。2010年10月1日現在の来春大学卒の内定率は57・6%（文科省と厚労省調べ）で、これは就職氷河期と言われた2004年3月卒の60・2%を下回る低さだ。もともとこの04年次生の就職率は、翌年4月1日には93・1%まで延びている。今回も支援策をフル動員して就職率を最終的には90%台半ばまであげていきたいし、その先も考えたい。

でも厚労省予算で「京都府パーソナル・サポートセンター」が11月29日に開設された。場所は京都テルサだ。各機関が失業者や若年不安定就労者などの生活と就労を長期間伴走するかたちで支援する。全国では北海道の釧路市、横浜市、京都府、福岡市、沖縄県の5カ所にモデル事業として置かれた。来年度は大阪府など20カ所以上に拡充する予定だという。われわれ「あつたかサポート」も、事業の意義を考え、笹尾達朗常務理事をセンターのチーフとして派遣することとした。

このため、当法人の事務局体制を再編・強化し、本来の法人事業を着実に推進することとし、11年1月30日（日）には別記のように臨時総会を開く。記念講演としては内閣府参与の湯浅誠さんを予定している。皆さんの積極的なご参加を改めてお願いしたい。

1月30日に湯浅誠氏を招いて交流会
このような事情を背景として、京都

経済の状況は一時ほど悪くはない。リーマンショック後のどん底景気から徐々に脱し、回復基調にある。ただし、ヨーロッパを震源とする財政危機と金融不安がギリシャからアイルランドや

スペインにも波及する心配もある。そのための円高やアジアでの政治的緊張が、輸出主導の我が国経済の先行きを不透明にしているのも事実だ。

この状況に対処する施策として、政府は総額5兆円超の補正予算を11月26日に成立させている。内容は、新卒・若年者支援を中心とする雇用・人材育成に3200億円、新成長戦略の推進としてエコ住宅やエコ家電の普及促進などに3370億円、地域活性化施策として地方交付税の1兆3126億円増額、中小企業の資金繰り支援に5600億円などとなっている。これらがてきばきと執行されるよう期待したい。

希望は人と人とのつながりのなかで

ところで10年10月に出た岩波新書に東京大学社会科学研究所の教授玄田有史さんの『希望のつくり方』がある。玄田さんは「ニート」という言葉を広めた人だが、その後「希望学」の研究を行ってきた。その成果である。希望を持てるかどうかは「その人が社会においてどれだけの可能性が開かれているかが、ひとつの決め手になることを見ました。また希望は人と人とのつながりによって見いだされたり、一緒に

行動することで実現できたりすることから、他の人との関係性も希望を左右していました」と述べる。この「可能性と関係性」の他に第三の論点として「物語」が大きな役割を果たすと言う。人が希望という物語を紡ぎ続けることを助けること、あるいはその「物語」を共有することが大事だという。

関係性では、今まで注目されてこなかった「ウィーク・タイズ」をつくることの大切さを指摘している。「弱い結びつき」という意味で、具体的には同窓会のような一年に1回とか5年に1回だが、それが昔の記憶に支えられているような淡い関係のことだ。ゆるい人脈の一つだろうが、特徴は、生きる道やステージが違った人々同士のつながりだという点だ。これによって思いもよらない見方を教えられ、違う展望に出会える。

就職に悩み、挫折感の中にある若者や学生などへの支援は、このような視点に支えられて希望を共に語り、その物語をつむぎ出すことでもある。

NPOなど市民同士の協働へ

もう一つ。パーソナルサポートのモデルとなる釧路市生活福祉事務所を描いた『ルポ 生活保護』（本田良一著、

中公新書、10年8月）の第6章だ。また11月30日夕方には、京都パーソナルサポートのスタッフ主催の研究会に釧路の取り組みのキーマンである生活支援主幹、櫛部武俊さんを招いてお話を聞いた。

ここには市民同士のネットワークに支えられた自立支援プログラムがある。このプログラムでは就労だけではなく、ボランティアへの参加など社会的居場所を確保するための支援を行う。自立概念を経済的自立だけではなく、生活の自立や社会活動の自立にも広げて生活を支える。それによって元氣と笑顔を引き出すのだ。ポイントが、行政とNPOなど市民との協働だけでなく、NPO間のような市民同士の協働がこのような支援を支えることができる、という点である。ここにも「ウィーク・タイズ」が生かされている。うまずたゆまず、このようなネットワーク的なつながりをつむぎ続ける仕事を続けていくことが、私たちのミッションであり、希望であることを再確認した。



あったか歳時記

一月

妹尾 健

御承知のように俳諧では「新年」の分類を立て春夏秋冬の四季とは別の世界を設けます。或る歳時記には一月の季節解説として「一年十二月の第一の月なり。節、晩冬にして極寒にあたり、陰暦にてはこの月を正月と称す。」とあり、例句として、

一月となりけり雪もふりにけり 子規
一月や雪に撒きやる雀の餌 冬葉
一月も半ば過ぎたる釜日かな 紫朗
一月や人なき寺の台所 天真
一月や無事帰省して櫓に乗る 三幹竹
一月の陽あたる畑や風の音 句佛

といった句が一月として挙げられています。この正月の一月としての句意のあり方としてはどのあたりがふさわしいでしょうか。作句の要諦としては次のようにいえるのではないかと「正月は陰暦一月をいふ呼称なれば陽暦の一月の気分にて詠むことは避くべし。一月は現今寒に入る月にして寒さのきびしくなる時候なれど、正月といへば春立ちたる陽氣を迎え、柔む気分あり。その間に自ら区別さるべきものの存することに注意を要す。閏正月、旧正月、小正月、七日正月、二十正月、骨正月、女正月などいずれも陰暦の行われたる時の呼称なればその心して作句すべし。」(傍点は妹尾)。例句として、

いたたくや大和正月三笠山 鬼貫
正月や三日過ぎれば人古し 蘭更
正月や餅いたましき采女達 几重
正月やわすれてあれば袖の月 乙二
一醉に正月暮れし思ひ哉 月斗

といった句が挙げられます。季節は厳しいころですが、心中は年改まって気分横溢の感があるといったところでしょう。有名な石川啄木の、

何となく

今年はいい事あることし

元日の朝晴れて風無し

はこの時候と心中を述べた一首でしょう。

勿論、この歌の背景には、

新しき明日の来るを信ずといふ

自分の言葉に

嘘はなけれどー

という痛切な胸中があります。昨年と今年の間にあつた過ぎ去つたものと新しいものととの出会いが正月にはあるのです。俳句には「去年今年」といった季節があるのですが、

命継ぐ深息しては去年今年

去年今年いま純白の睡り来る

埋火の生きてつなぎぬ去年今年

暗きより火種をはぐぶ去年今年

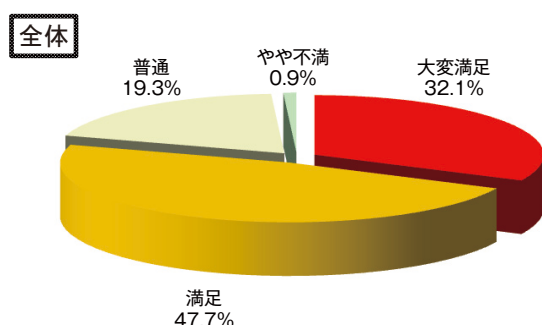
などといった句に新年を迎える俳人の思いを実感することができます。

俳句の世界ではこうした過去と現在の世界の対比を季節の中で集約してみせています。長い詩歌の世界が作りあげた方法の一つといえるでしょう。すぐる一年は皆さんにとってどんな一年であつたでしょうか。苦悩に満ちた一年であつたかもしれません。貧困・不況・それにともなう人間関係の葛藤などさまざまであつたことでしょう。しかし苦悩はまた人間の心を深め生き生きと明日を生み出すものともいわれております。困難な中であつて方向を見出すために悪戦苦闘をつづける方々、理不尽な思いの中に生きる方々、どうか今年が前進へむかつての一年となりますことを祈念致します。

昨秋季、労働関連教育に関する「出前授業」の報告

昨秋季、杉原純子専任講師を中心にして様々な高校や大学で出前授業を務めて来ました。その中から①龍谷大学での就活中の学生を対象にした出前授業に関する「学生の声」龍谷大学の独自調査結果が編集部に届きましたのでここに紹介します。②また今回龍谷大学深草学舎で大学生を対象にした出前授業で初めて講師を体験された小松麻利子さんからの体験談、③社会的引きこもりの青年たちを支援する「京都ARU」の研修会参加者から感想文が寄せられましたので併せて紹介します。

●今回の就職ガイダンスは、いかがでしたか？●



龍谷大学の就職ガイダンスで「求人票の深読み」を伝授

去る10月29日、龍谷大学の瀬田学舎で就活中の学生を対象にした就職ガイダンスが実施されました。テーマは「求人票の見方」でした。龍谷大学が独自に実施したアンケート調査の結果が編集部に届きましたのでここに紹介します。調査結果によると「大変満足」と「満足」の声を合わせると、79.8パーセントの好評を得ました。これからもニーズがあれば実施して行きたいと思います

評 価	感 想 ・ 意 見
大変満足	求人票の見方が良く分かった。もっといろいろな事例をやってほしかった。
大変満足	求人票を見るときは、いつも資本金しか見ていなかったのが、採用条件など細かく見る必要性を理解する事ができました。
大変満足	求人票の見方を全然知らなかったのが、為になった。
大変満足	とてもためになる話でした。聞けてよかったと思います。
大変満足	貴重な情報だと思うので、複数回実施してもよいのではないかと思います。
大変満足	求人票を見てその会社がどのような意図を持って募集をかけているのかどうか良く分かった。保険など法律の事などにはよく注意してみなければいけないと思う。
大変満足	求人票の罠について知れた。
大変満足	求人票の見方や、保険について理解が深まりました。
大変満足	見方が分かってよかった。裏をよむことがポイント。
大変満足	すごい現実的でした。今まで知らなかった話ばかりで、怖くなりました。
大変満足	最近、ブラック企業と呼ばれる企業が怖く、リクナビなどで色々見ているので求人票の知識をほしいと思っていたのでよかった。
大変満足	実用的だと思った。
大変満足	求人票の書き方で、求人票に裏があると考えた事がなかったので、そういったことも考えないといけないと言う事を知れた。
大変満足	求人票に書いてある文章の裏の意味がよく分かり、為になった。求人票に騙されないように注意しようと思った。
大変満足	健康保険の意味などが分かり求人票を見るのにとっても役立った。
大変満足	今まで見えていなかったものが見えた気がしました。
大変満足	求人票についての説明は初めてだったのでよかった。
大変満足	求人票だけで会社が何を考えているか分かるのが少し怖かった。
大変満足	求人票を顔面通り受け取ると怖いことが分かりました。セミナーを受けてためになりました。
大変満足	保険や手当についてとても分かりやすく説明していただいて、とても良かったです。求人票の見方は就活に直結する事だと思うので、この知識を活かして就活に臨みたいです。
大変満足	今日のセミナーを受講していなかったら、求人票に書かれていることをそのまま信じていたと思います。長く働くために、きちんと求人票を確認していきたいです。
大変満足	求人票、働いていく上で知っておくべきことをかなり細かくお話いただいたので、大変勉強になりました。ありがとうございました。
大変満足	福利厚生について。
大変満足	求人票の見方というのが良く分かりました。この文章の意味は裏にどんな意味が含まれているのかや、読み取らなくてはならないことがあると分かりました。文章の巧みな言い回しに惑わされないようにしなくてはならないと学びました。ありがとうございました。

あったか情報

評 価	感 想 ・ 意 見
大変満足	もっと詳しく聞きたいです。
大変満足	求人票や給与明細、各種保険について初めてきちんと勉強しました。
大変満足	求人票を特に考えずエントリーしました。本当にその会社を受けるのか、エントリーシートを提出するかどうか、求人票を会社のHPを見て自分で考えて、見極めていきたいと思います。
大変満足	少し難しかったですが、求人票1つに対して、このような実態があるということを初めて知る事ができました。
大変満足	求人票の見方は大変参考になりました。会社の形態などもっと詳しく知る必要があるなと思いました。
大変満足	求人票を見る上での注意点などが分かって大変良かった。
大変満足	求人票の見方、保険のことがいろいろ理解できた。
満足	どこでもいいから内定が欲しいと思うのではなく働く企業を自分で見極めなくてはよい就活はできないと思った。
満足	社会に出るために必要な知識を学べた。こういう話をもっと大学で学ばせるべきだと思います。
満足	普段聞かない内容を知る事ができた。
満足	全く知らなかった事がたくさんありました。
満足	今はやりたいことや仕事内容で情報を見ていたので福利厚生の方からも考えていきたい。
満足	採用情報の見方。
満足	求人票はどこを見ればよいかがよく分かった。社会保険について理解出来てよかった。
満足	求人票をきちんと見たのは初めてで、その見極め方が分かって良かった。
満足	将来は不安ばかりだから、しっかり情報を入れておかないと損をしてしまう。
満足	求人票ひとつ見るにしても雇用形態や福利厚生をキッチリ見分けなければならないことを知った。
満足	求人票には落とし穴がたくさんあるのだと学んだ。
満足	裏も読まなければならないというのを知った。用語の解説もよかった。
満足	保険のことなど、知らなければ損をすることをたくさん知れてよかった。
満足	求人票の裏読みの仕方、はすごく参考になった。
満足	求人情報の裏読み。妊娠・出産を通して解雇制限や保険給付の関係。
満足	知らなかった事が知れた。
満足	社会保険のことが詳しく知れてよかった。求人票の見方のポイントや落とし穴が分かった。
満足	知らない知識が非常に多くとても良い内容でした。
満足	就職において落とし穴を見極める必要があるのだな、と感じました。
満足	これから求人票を見る際に注意してみようと思う。
満足	求人票の裏読み。
満足	とても勉強になりました。社会知識全然知りませんでした。
満足	これから求人票に注意しようと思う。
満足	具体的に求人票をみる方法が分かって良かったです。会社を選ぶ基準が分かって良かったです。
満足	給料明細や求人広告の見方、ただ文面をみるだけでなく、裏側まで読み取る方法を知れてよかった。
満足	求人票の本当の見方を教えて頂けたので、入社後のギャップがよりなくなると思います。
満足	役に立った。
満足	求人票など、しっかり見たことがないのでこれから見るのに役立てていきたいと思っています。
満足	求人票の正しい見方について分かった。控除を引かれるのはもったいないのかなと思ってたけど、怪我をした時に大切な役目を果たしてくれるんやなと思った。
満足	細かいとことで知らない事が多かった。
普通	求人票の見方。
普通	求人票では様々なことが分かる。保険や採用条件をしっかり見るべきだと知った。
普通	講義に最初から参加できなかった為、もう一度聞きたい。
普通	たくさんの裏側はみれたけれど、企業は怖いんだと思ってしまいました。自分に合う企業を探し出さないといけないと強く思いました。
普通	スクリーンが見にくかった。いつもよりちょっとうるさくて集中できなかった。
普通	求人票の意外なひっかけを知る事ができました。
普通	見るポイントを把握できた。契約条件を見て選びたい。
普通	求人票の見方を初めて教えて頂き参考になりました。
普通	具体的に保険の説明などを先にしてから、詳しい説明に入ってほしかった。何のことを言っているのかよく分からなかった。求人票の見方はとても良かった。気をつけるポイントも知る事ができた。
普通	話の内容が保険や求人票の見方についてで難しかったが、めったに聞ける話ではなかったのでセミナーに参加してよかった。
普通	否定が多くあまりおもしろくなかった。
普通	知っている事が多かった。
やや不満	分かりづらかった。口頭での説明が多かったので、イメージがなかなか湧かなかった。
やや不満	ケースが分かりにくかったので、過去に龍大として来ていた求人票を使うなどしてほしかった。

出前授業の講師をして

社会保険労務士 小松 麻利子

去る10月22日に龍谷大学深草学舎で大学生を対象にした出前授業を初めて行った小松麻利子(社会保険労務士)さんから、その体験談が寄せられました。学生に社会保険労務士の持てる知識を伝えることよりも、今の時代を語りながら自らの思いを伝えることの大切さについて述べておられます。

高校生と就職活動を控えた大学生への出前授業の講師をしました。授業には十分に準備をして臨んだのですが、反省する点がたくさんありました。「体験記」を書く機会を頂いたので、私自身の今後のため、そしてこれから講師をされる先生方の参考のために、反省点を挙げ、感想を述べたいと思います。

私が授業をした際、あったかサポートの笹尾理事から出前授業では「知識」を教え込みに行くのではない、「時代」を語らなければいけない、と言われました。言われた当初、「時代」と言われてもそれをどのように授業の各テーマに反映させたいのか、具体的なイメージがわきませんでした。

その後、「時代」という言葉を頭の片隅におきながら、他の講師の出前授業を見学したり、授業の打ち合わせに参加したりするうちに、「時代」を語る、という意味がなんとなくわかってきま

した。私は授業の準備の際、教える内容(例えば、社会保険について)をどのように説明しようか、という点にとられすぎていたせいで、なぜ今学校教育において労働関係法令・社会保障等の教育支援活動が必要になっているのか?という背景までじっくり考え、授業に取り入れられていなかったのではないか、と思います。

私が社会に出た時と比較しても、現在は雇われ方が多様になり労働環境がとてども厳しくなっています。例えば、全労働者の3人に1人、若い人なら2人に1人が非正規労働者です。その上、日本の中で仕事をする場所が少なくなってきたいます。まさに一昔前とは社会の様相が違ってきています。安定した雇用環境で働けないから労働トラブルにあいやすい、よって働いていく上で以前より知恵が必要な時代である、というメッセージを伝えるに行く

ことをいつも念頭に組みあわせ、この授業の意味がより明確になり、授業を受ける側の意欲が高まるように思いました。

しかしながら、実際の授業では、この「時代」を語るのに工夫が必要となります。聞く学生の立場は様々です。で、学生が身近に感じる事例からいかにか本質的な話にもっていくか、頭をひねるのですが、それには講師が引き出しを多く持っていることが要求されま

す。講師は経験の棚卸しと世の中の事象を知る努力を普段からしていき、それを講師自身の言葉で語ることができれば受け手に対する言葉の伝わり方もかなり違ってきます。日々の研鑽が大切だと改めて感じた次第です。多様なそして広い視点から世の出来事を見つめるためにもあったかサポートが提供する各種セミナーにも出席し、見識を拡げていこうと思っています。

社会的ひきこもりを支援する「京都ARU」で出前授業

3人の引きこもり経験のある若者とその家族の声を紹介

去る10月23日に京都市南区にある社会的引きこもりの経験のある青年たちを支援する「京都ARU」で青年たちとその家族が集まり、研修会が開かれました。その参加者のうちから3人の方が編集部感想文を届けてくれました。「生きるための知識」のメッセージが少しでも話を聞いて頂いた方々に届けられたかなという気持ちにさせて頂きました。ここに紹介させて頂きます。

「生きてほしい」というメッセージ

梅林秀行(京都ARU事務局長)

私たち京都ARUの会員さんで、ひきこもり経験のある若者とその家族、計13名の出席となりました。

先だって2010年10月23日(土)の13:30~16:00、NPO法人あったかサポートさんから講師お二人(笹尾達朗さん、杉原純子さん)をお招きして、出前授業を開催しました。参加は

若者のなかに高まることはないだろうか。知識を得ることが、かえって困難を抱える若者に新たな葛藤を生むことはないだろうか……。

しかし出前授業を終えたとき、事前の懸念とはまったく逆の感想を若者たちからももらいました。彼らが口をそろえて伝えてくれた感想は、「生きる希望が湧いた!」というものです。不安や恐れを抱くどころか、知識を得ることでむしろ生きることについてポジティブな感覚を得ることができたというものでした。これは私たちにとって大きな驚きです。

なぜ、知識を得ることが生きる希望に繋がるのか。実際に出前授業に参加させていただいた私自身が感じることは、笹尾さんと杉原さんの講師お二人からのメッセージです。賢く生きるための知識を若者や家族にお伝えする「思い」を、お話の行間から感じます。それはつまり「生きてほしい!」というメッセージでした。

現実には否応ない不条理な困難がある、それでもなお生きてほしい。望むような、あるいは望まれるような生き方が困難な時代となってしまうかもしれない、それでもなお生きてほしい。生きてほしいからこそ、賢く生きるための「術」を伝えたい。

今回の出前授業に参加した若者から寄せられた、「生きる希望が湧いた」という言葉。それは、あったかサポートの講師お二人からのメッセージを感じ取ることで生まれた希望なのかもしれません。希望のメッセージに裏付けされた知識が、どれだけ困難の渦中にある若者の心に響いたことでしょうか。私自身、今回の出前授業のなかで、講師お二人と参加者の関わりのおかげで、学ぶことの多い時間を過ごすことができました。

改めてNPO法人あったかサポートさんには感謝の気持ちでいっぱいです。今後とも希望を紡いでくださる窓口として大いに頼りにさせていただきます。心からありがとうございます。

知は力なり

大槻陽介 (28歳 京都ARU会員)

去る10月23日、京都ARUにて開催されたNPO法人あったかサポートさんの出前授業を受けた。最初は京都ARU事務局の勧めもあり、「自分のためになるかもしれないし、まあ受けてみるか」という程度の軽い気持ちで参加した。しかし、授業を受け始めてすぐに、その様な気持ちは吹き飛んでし

まうことになる。

前半は、笹尾さんが話をして下さった。授業はまず、世代や雇用形態等の変化を含めた自分たちを取り巻く環境の変遷(時代は変わったのだ!)というところから始まり、今回の授業の主眼となる現在の社会保障システムの仕組みと特徴、そしてその問題点、健康保険や雇用保険、年金といった各種社会保障についてのちょっとした詳細、さらには「働く」ということの意義や自己実現についての話にまで及んだ。

まさか、ここまで濃密な内容の話を聞けるとは……衝撃的だった。話の内容だけでなく、社会保障について知っているようなつもりでいながら全く無知だった自分に気付いたこと、さらにそういった知識は誰も教えてくれないという事実には愕然とした。

後半は杉原さんに、社会保険労務士になった経緯やきっかけを、自らの体験をもとに話して頂いた。社会保障に関する知識について、僕みたいにとんと何も知らない人、あるいは何となく分かったようなつもりになっていないながらその実、表面的な知識しか持っていないという人は、数多くいるのではないだろうか。

自主的に知ろうとしなければ、本当

に誰も教えてくれない。今はそんな世の中になってしまったようだ。しかし逆に、目的意識をしつかり持つて知ろうとすれば、生きていくための強力な助けになってくれる知識が、きちんと用意されているのだ。そして、その様な知識を、少しでも多くの人に伝えていく活動をされているあったかサポートさんの存在は、本当にありがたいものだ。

今回の出前授業では、笹尾さん・杉原さんの話を聞けて幸運だったと思うが、現代の生きづらさの要因の一端が分かったような気がした。それと同時に、「知る」ということの大切さを痛



京都 ARU の活動 (青少年支援フォーラム出展)



京都 ARU の活動（パン作り）

感じた。知っていると知らないのでは、天と地ほどの差がある。まさに「知は力なり」だ。できれば今後も、またあったかサポートさんの授業をぜひ受けたい。

貴重な話をして下さった笹尾さんに杉原さん、そしてこの授業をコーディネートして下さった京都 ARU 事務局に、心より感謝したい。ありがとうございました。

出前授業を受けて

（ある ARU の親）

10月23日にNPO法人あったかサポートさんから「働くこと、社会保障

の仕組みを学ぶ」と言うテーマで出前授業を受けました。当日は、京都 ARU の居場所までわざわざ笹尾様、杉原様にお越しいただきました。当方は親、若者合わせて13名の出席で、参加者が若干少なかったのが残念でした。もっと多くの人に聞いて欲しい授業でした。

話の内容は、働くことはどんなことか、それに伴ういろいろな社会保障の仕組みについてで、現に働いている我々親も知らないことがあり、興味深いお話でした。中でも「緊急人材育成・就職支援基金」の仕組みについては、今後 ARU の活動で使えそうに感じました。授業の後、ある若者と話しましたが、「全く知らなかったことの一端を知った、全く知らないのと、少しだけでも知っているのでは大違い」と言っており、大変参考になった様子でした。今後、若者が職についていく上で何か困ったことがあれば、まず京都中小企業労働相談所に行こうとも話していました。

笹尾様、杉原様、あらためてお礼申し上げます。ありがとうございました。また機会があれば次の出前授業をお願いします。

「雇用につまずかないために」（12月5日）

第3弾のシンポジウムを実施

去る12月5日、京都市伏見区の龍谷大学で「なぜ雇用・就職のミスマッチが生じるのか」をテーマにしたシンポジウムが行われました。学生の就職支援関係者や学生を含む約120人が参加しました。京都新聞にもそのときの模様が紹介されましたが、紙面の都合上省略しました。また回収したアンケートより様々なご意見が寄せられましたので、その一部をここに紹介します。尚、学校教育の中で労働関連教育が必要かどうかを問うたところ、およそ90パーセントの参加者が、「はい」と回答されていました。引き続き普及活動を計画しますので、併せて次年度方針をここに掲載します。

アンケートから

◇ 私は今、大学2年生ですが、「就職して、自分で生きてゆけるか」という大きな不安を感じています。また、大学で4年間しっかり勉強したいのに出来ない現状にいらだちを感じています。しかし、このシンポジウムに参加したことで、正しい現状認識をし、今後自分が何を心がけていくべきかが明確になり、安心が得られました。本当に有り難うございました。

（学生・女性・20代）

◇ 野崎治子氏（堀場製作所）の人材発掘、見分け方に納得させられました。自らの就職活動を思い出ししてしまいました。高校では直前

◇ としては、折角職についても、早期退職をし、非正規雇用になれていく実態は切ない。龍谷大学の窪田氏が提案されていたように、「働きやすさ」に関するデーターを、プラス面、マイナス面を含めて、もっと開示されるべきだと思います。働きやすい職場がもっと増えなければ、ミスマッチ、早期離職の増加の改善はできないと思います。

（大学職員・女性・30代）

◇ 社会に学生を送り出す大学職員